

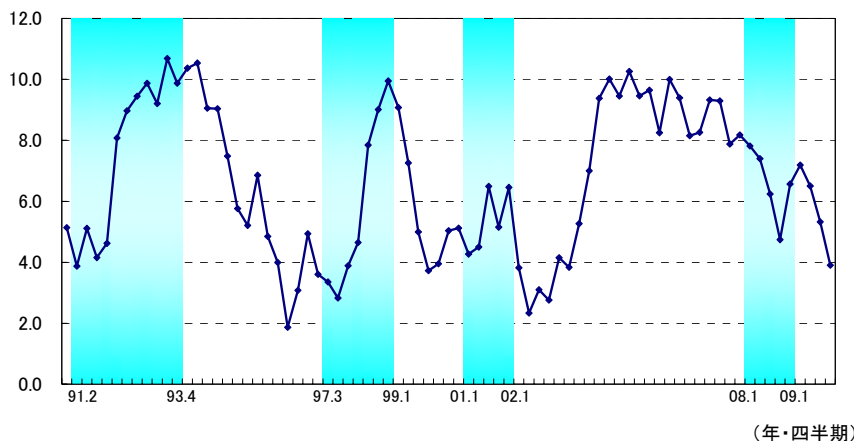
Weekly エコノミスト・ レター

地域の景況感格差の動向 ～景気循環と地域の景況感格差

経済調査部門 研究員 桑島 滋
(03)3512-1838 kuwahata@nli-research.co.jp

1. 1991年以降の景気循環について、地域間における景況感格差の動きをみると、2000年10-12月期までについては、景気後退期に格差が拡大し、拡張期に縮小している。一方、それ以降については、景気後退期に格差が縮小するなど、2000年10-12月期までとは異なった動きとなっている。
2. 製造業の地域間における景況感格差は、地域により景況感の変動幅が異なることによってもたらされている。景気後退期には、変動幅の大きい地域の悪化スピードが増すことで格差が拡大し、景気拡張期にはその巻き戻しの動きが起こることで、格差が縮小している。変動幅の大きい地域は輸出型機械産業の割合が高いという特徴がある。
3. 2001年頃以降、業況判断DIの地域格差の動きが変わっている原因としては、2002年以降の拡張局面において、拡張期が長期間続いたことにより、DIの水準に逆転が生じた後も東海などの地域でより景況感の改善が進んだことに加え、公共投資が縮小したことにより、非製造業の格差が後退期に縮小するようになったことが考えられる。
4. 2009年1-3月期以降、地域の景況感格差は製造業を中心に縮小傾向となっており、今回復局面も輸出主導型となっていることから当面、格差縮小が続くものと思われる。一方、非製造業では、今回復局面において、公共投資の増加が見られたことから、地域間の格差はほぼ横ばいで推移してきたが、先行きについては、公共投資は減少を余儀なくされることから、次第に縮小していくものと思われる。

地域別短観による業況判断DIの標準偏差の推移(全産業)(図表1-1)



(資料)日本銀行「短期経済観測調査」
(注)シャドー部分は景気後退局面

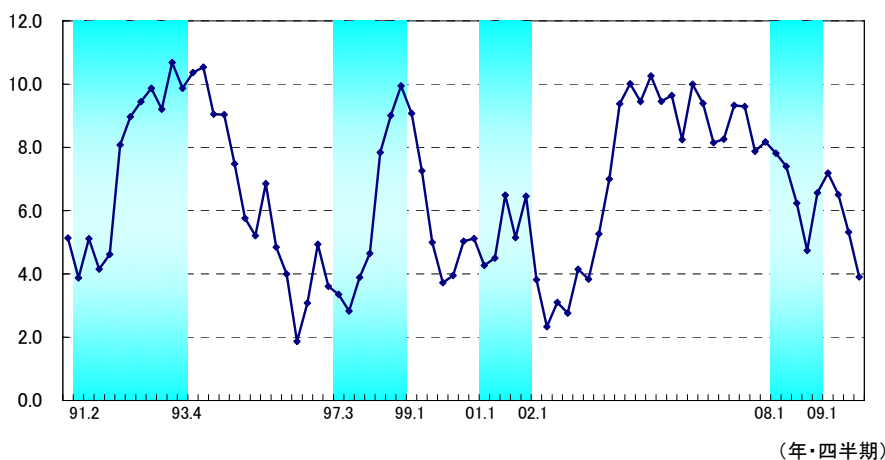
1. 景気循環と地域の景況感格差

日本経済は、2008年9月のリーマンショックに端を発する世界同時不況により、戦後最大の景気後退を経験したものの、海外経済の改善に伴う輸出、生産の増加を主因として2009年3月を底に回復に転じている。地域経済についても総じて回復基調を辿っているが、地域間における景況感の回復スピードは一様でなく、地域間の景況感には格差が見られる。

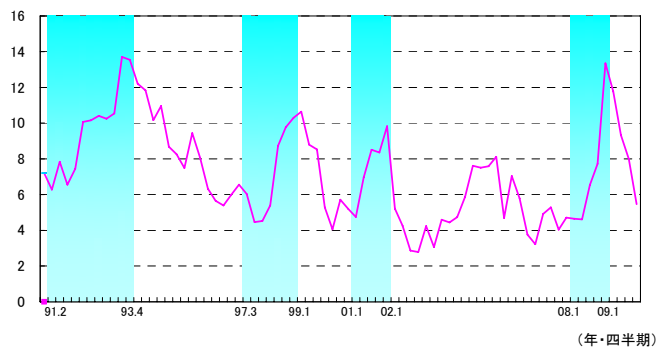
景気循環と地域の景況感格差との関係についてみるために、日銀短観の地域別業況判断DIの標準偏差（全産業）を測定し、その推移について確認することとする（図表1-1）。標準偏差の上昇は地域間における景況感格差の拡大、標準偏差の低下は格差の縮小を意味する。

1991年以降の景気循環について、地域間における景況感格差の動きをみると、2000年10-12月期までについては地域間の景況感格差は景気後退期に拡大し、景気拡張期に縮小している。一方、2000年10-12月期から2002年1-3月期までの景気後退期についてみると、地域間の景況感格差は拡大しているものの、1990年代の2回の後退期と比べると小さい。2002年1-3月期から2007年10-12月期にかけての景気拡張期においても、2002年7-9月期にかけて格差は縮小したものの、2004年頃から格差が急速に拡大し、その後高止まりで推移するなど、2000年10-12月期までとは明らかに異なった動きを示している。2007年10-12月期からの景気後退期では終盤にかけて格差は縮小傾向で推移した後、拡大に転じた。その後、拡張局面入りした2009年1-3月期以降は縮小傾向となっている。

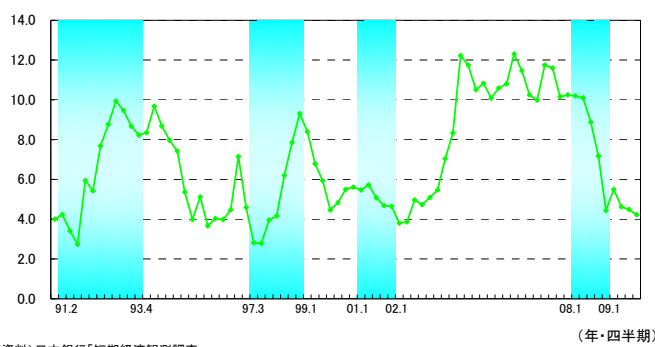
地域別短観による業況判断DIの標準偏差の推移(全産業)(図表1-1)



地域別短観による業況判断DIの標準偏差の推移(製造業)(図表1-2)



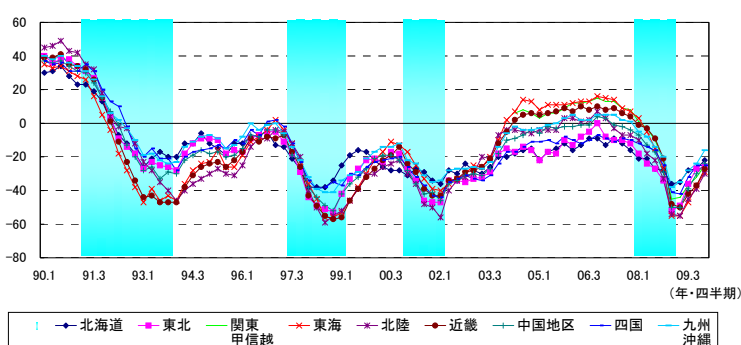
地域別短観による業況判断DIの標準偏差の推移(非製造業)(図表1-3)



このような格差の動きが生まれた要因を製造業、非製造業別の標準偏差の推移について見ると、2000年10-12月期までの期間については概ね、製造業、非製造業ともに景気後退期に上昇、拡張期に低下している（図表1-2・1-3）。この間、製造業の標準偏差が非製造業を上回って推移していることから、地域間の景況感格差はとりわけ製造業の格差動向に強く影響を受けていたものと思われる。

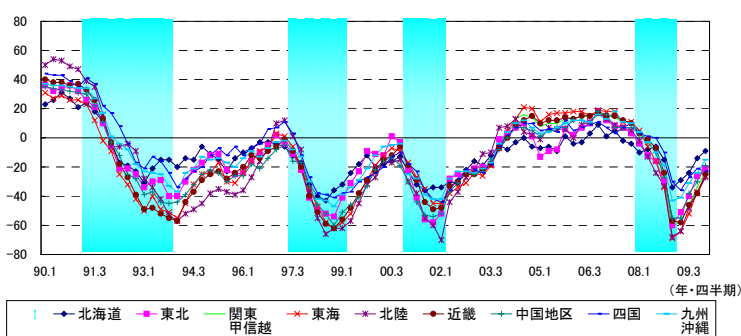
一方、2000年10-12月期以降については、景気後退期に製造業の標準偏差が上昇しているのに対し、非製造業では低下するなど、製造業と非製造業の標準偏差の推移に連動性が見られない。また、地域間の景気格差が急拡大した2004年以降の景気拡張局面においては、特に非製造業の標準偏差が大きく上昇していることが確認でき、この間の地域間の景況感格差は非製造業の格差動向を強く受けていたことが分かる。

地域別短観による業況判断DIの推移(全産業)(図表2-1)



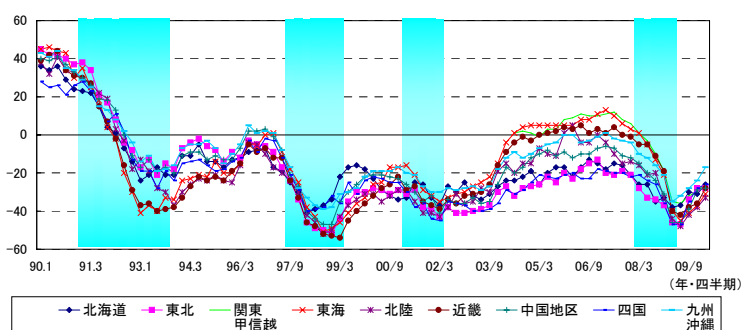
(資料) 日本銀行「短期経済観測調査」
 (注1) 関東・甲信越については、2004年第1四半期以降のみ記載
 (注2) シャド一部分は景気後退局面

地域別短観による業況判断DIの推移(製造業)(図表2-2)



(資料) 日本銀行「短期経済観測調査」
 (注1) 関東・甲信越については、2004年第1四半期以降のみ記載
 (注2) シャド一部分は景気後退局面

地域別短観による業況判断DIの推移(非製造業)(図表2-3)



(資料) 日本銀行「短期経済観測調査」
 (注1) 関東・甲信越については、2004年第1四半期以降のみ記載
 (注2) シャド一部分は景気後退局面

2. 景況感格差が生じる要因

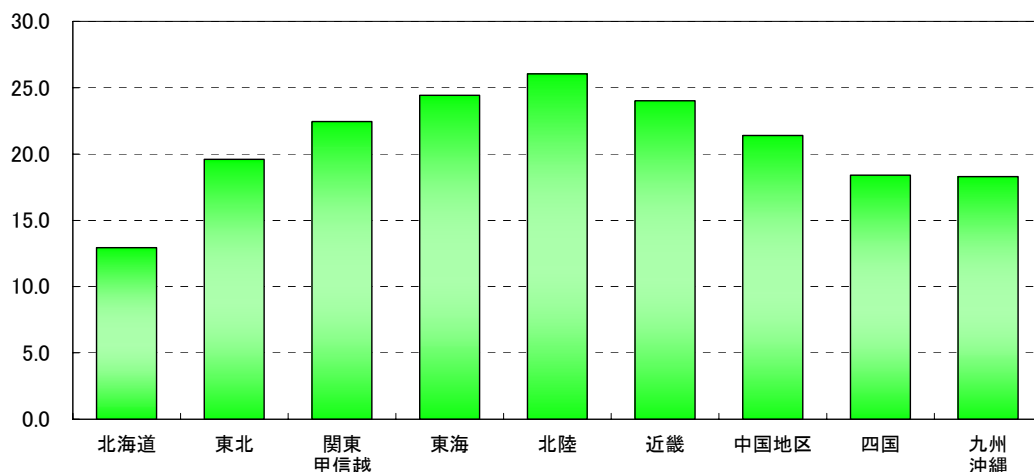
地域間における景況感格差がみられる要因について詳細に確認するために、製造業、非製造業別に地域別業況判断 DI の推移について確認すると、1991 年以降の製造業における地域の景況感格差は、概ね地域によって変動幅が異なることによってもたらされていることが分かる。(図表 2-2・3)。

図表 1 では業況判断 DI の地域的なバラツキを見たが、地域ごとに業況判断 DI の時間的なバラツキをみると、製造業の業況判断 DI は北陸、東海、近畿などの地域では変動が大きいものに対して、北海道、四国、九州・沖縄などでは変動が小さいことが分かる(図表 3)。景気後退期には、DI の変動幅が大きい東海、北陸などの地域ほど景況感の悪化スピードが速く、大きく落ち込むことにより、北海道などの落ち込み幅が小さい地域との間で景況感格差が拡大している。一方、景気拡張期にはその巻き戻しの動きが起こり、景気後退期に DI の水準が低かった東海、北陸などの地域ほど回復スピードが速くなり、DI の水準が追いつく過程で地域間の景況感格差が縮小している。

1993 年 10-12 月期から 1997 年 4-6 月期、1999 年 1-3 月期から 2000 年 10-12 月期の 2 回の拡張期では、変動幅の大きい地域の DI の水準が変動幅の小さい地域に追いついた直後に景気後退期を迎えたため、景気拡張期において景況感格差の拡大は見られなかった。

一方、2002 年 1-3 月期からの拡張局面においては景気拡張期が続いたため、DI の水準が逆転した 2004 年以降についても東海などの地域でより景況感の改善が進み、地域間における格差が拡大した。その後、2006 年頃からは東海などの DI が横ばいで推移する中、北海道などの DI が改善傾向となったことから再び格差は縮小傾向となった。

地域別業況判断DIの標準偏差(製造業)(図表3)



(資料)日本銀行「短期経済観測調査」

(注)関東甲信越は2004年第1四半期から2010年第1四半期、その他の地域については、1991年第2四半期から2010年第1四半期で標準偏差を測定

製造業の業況判断 DI の変動幅の大きい地域と小さい地域を比較すると、変動幅の大きい北陸、東海、近畿といった地域では地域内総生産に占める製造業そのものの割合が高く、変動幅の小さい北海道、九州・沖縄、四国ではその割合が低いという特徴がある(図表 4)。特に輸出型機械産業(鋳工業出荷内訳表の輸出ウェイトの高い一般機械、電気機械、輸送用機械、精密機械を輸出型機械産

業と仮定)の割合で見ると、東海が20%を超えているのに対し、北海道、九州・沖縄、四国ではその割合が低く、北海道では2%にも満たないことが見て取れる。

域内総生産における産業の割合(2007年度)(図表4)

	製造業	輸出型機械産業	輸出型機械産業				サービス業	その他
			一般機械	電気機械	輸送用機械	精密機械		
北海道	7.91	1.57	0.28	0.83	0.44	0.02	24.05	68.04
東北	19.63	8.63	1.64	5.47	1.06	0.46	20.59	59.78
関東	17.11	6.93	2.04	2.70	1.80	0.40	23.90	58.99
北陸	23.99	9.79	3.63	4.99	0.86	0.31	19.26	56.74
東海	34.17	20.60	3.67	5.00	11.59	0.34	17.40	48.43
近畿	21.07	7.62	3.37	2.74	1.21	0.29	21.94	57.00
中国	26.10	10.05	2.65	3.68	3.53	0.19	18.83	55.07
四国	19.36	5.17	1.78	2.23	1.13	0.04	21.32	59.32
九州・沖縄	15.68	6.34	1.33	3.00	1.76	0.26	23.85	60.47

(資料)内閣府「県民経済計算」

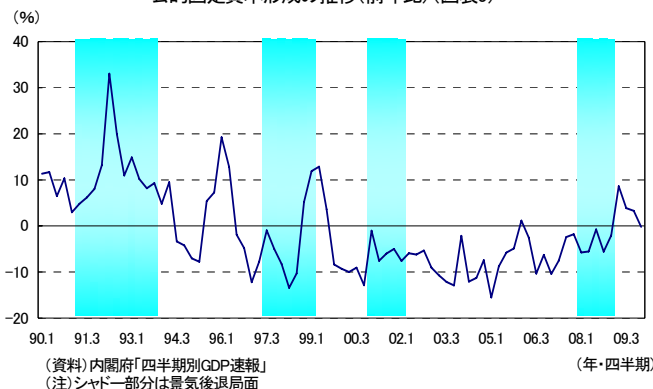
90年以降の景気後退期は、アジア通貨危機、米ITバブルの崩壊、リーマンショックといった海外経済の不振により輸出が大きく減少したことから、輸出型機械産業の割合の高い地域の景況感が大きく悪化している。一方、回復局面においても外需の改善による生産の増加が製造業、個人消費などの内需へ波及するという輸出主導型の回復を辿ってきたことから輸出型機械産業の割合の高い北陸、東海、近畿といった地域の景況感の改善スピードが速くなっている。

一方、非製造業については、1990年代の2回の景気後退期では、製造業同様、東海、近畿、北陸といった地域ほど景況感の悪化スピードが速く、大きく落ち込むことにより、北海道などの落ち込み幅が小さい地域との間で景況感格差が拡大し、景気拡張期にはその巻き戻しの動きが起こった結果、景況感格差が縮小した。

一方、非製造業の景況感格差の動向が変化した2000年10-12月期から2002年1-3月期のDIの動きを見ると、景気後退期において、それまで相対的にDIの落ち込み幅が小さかった北海道、四国などでもDIが大きく落ち込んだ結果、地域間における景況感格差が縮小している。このことから、2002年1-3月期からの景気拡張期においては、景況感格差自体が小さかったことに加え、従来同様、東海などの地域の回復スピードが速かったことから、短期間のうちにDIの水準が逆転し、地域間における景況感格差が急速に拡大した。2007年10-12月期から2009年1-3月期の景気後退期では1990年代の2回の景気後退期と同様に、東海、近畿といった地域の悪化速度が速く、大きく落ち込んだものの、直前の景気拡張期において、格差が大きく拡大していたことから、東海などの地域のDIが大きく低下する過程で北海道などとの格差が縮小した。

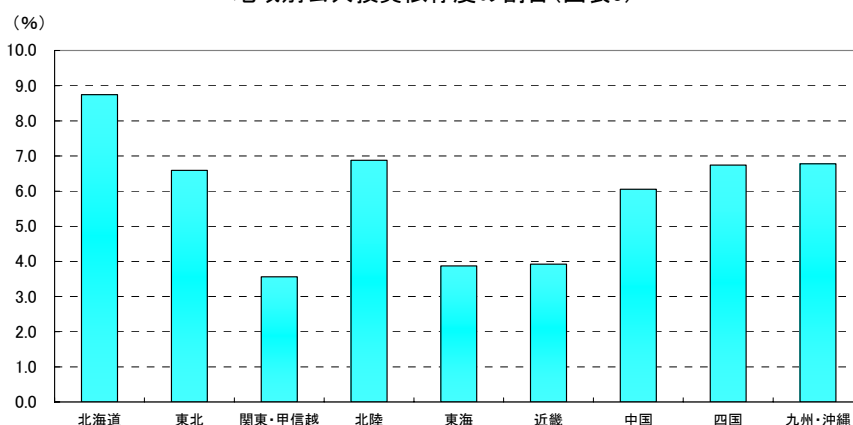
非製造業において、地域の景況感格差がこのような推移を辿った要因としては公共投資縮小の影響が大きいと考えられる。1990年代の2回の景気後退期においては、景気対

公的固定資本形成の推移(前年比)(図表5)



策として公共投資が積極的に採られていたことから、北海道、四国、九州・沖縄などの公共事業依存割合の高い地域の景況感を下支えしていたものと思われ、格差拡大の一因になっていたものと思われる。しかし、1990年代後半以降、財政改革の推進などの影響から公共投資は大幅な減少を続けた結果、公共工事依存度の高い北海道、四国といった地域の非製造業の景況感の改善を抑制し、景気後退期における非製造業の格差縮小、景気拡張期における格差拡大の一因になっているものと思われる。

地域別公共投資依存度の割合(図表6)



(資料)内閣府「県民経済計算」
 (注)数値は2002年度から2007年度の域内総生産に対する公的固定資本の割合の平均

では、今後の地域の景況感の格差はどのように推移していこう。2009年1-3月期以降の拡張局面について、製造業、非製造業別に標準偏差の推移を確認すると、非製造業がほぼ横ばいで推移する中、製造業の標準偏差が急速に低下しており、地域間の景況感の格差は縮小傾向となっていることが見て取れる(図表1-1・1-2・1-3)。製造業、非製造業別に足元の業況判断DIの推移を見ると、製造業では91年以降3回の景気拡張局面の初期に見られたのと同様に、北陸、東海などのDIの改善傾向が顕著であり、北海道、四国、九州に急速に追いつきつつあり、今回も輸出主導型の景気回復となっていることから、当面、この流れは継続するものと思われる。

一方、非製造業では、2007年10-12月期からの景気後退期に落ち込み幅が大きかった東海、北陸などと落ち込み幅が小さかった北海道、九州などで業況判断DIの回復スピードが同程度となっており、地域間における景況感の格差はほぼ横ばいで推移している。北海道、九州・沖縄などでDIの改善が進んでいる要因としては、リーマンショック以降の後退期に景気対策として公共投資の増加が見られた影響が大きいものと思われる。ただし、公共投資は既に足元減少に転じており、今後も増加が見込めないことから、北海道、九州・沖縄などの回復スピードが次第に鈍化し、非製造業においても徐々に格差は縮小傾向となっていくものと思われる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。